



第3回 アメリカンフットボール U-19 世界選手権
2014 クウェート大会

報告書



公益社団法人
日本アメリカンフットボール協会

第3回 アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 (報告)

国際アメリカンフットボール連盟(IFAF: International Federation of American Football)が主催する「第3回 U-19 世界選手権大会」は、2014年7月7日(月)~16日(水)、クウェート王国クウェート市で開催された。

大会には8カ国が参加、4カ国ずつのA・Bブロックに分かれ、1次リーグを行い各ブロックの順位を決定。同順位同士の対戦を行い、1~8位を決定するという方式をとった。

1次リーグを共に1位で通過したアメリカとカナダが決勝戦を戦い、アメリカが40-14でカナダを退け優勝、前回決勝で敗れたカナダへの雪辱を果たした。3位の座は31-30でオーストリアを下したメキシコが獲得した。

日本は1次リーグでメキシコと引き分けたものの、大会規程により3位通過となり、5位決定戦へまわり、30-7でフランスを破り5位という結果であった。

【最終順位】

優勝:アメリカ、準優勝:カナダ、3位:メキシコ、4位:オーストリア、5位:日本、6位:フランス、7位:ドイツ、8位:クウェート

試合結果

■1次リーグ

【グループA】

					勝敗	順位
カナダ					3勝0敗	1位
オーストリア		●			2勝1敗	2位
フランス		●	●		1勝2敗	3位
クウェート		●	●	●	0勝3敗	4位
	0 - 91	0 - 64	0 - 74			
	36 - 7	56 - 0	91 - 0			
	7 - 36	24 - 7	64 - 0			
	0 - 56	7 - 24	74 - 0			

【グループB】

					勝敗	順位
アメリカ					3勝0敗	1位
日本		●		△	1勝1敗1分	3位※
ドイツ		●	●	●	0勝3敗	4位
メキシコ		●	△	○	1勝1敗1分	2位※
	14 - 49	24 - 24	35 - 7			
	43 - 0	54 - 0	49 - 14			
	0 - 43	48 - 20	24 - 24			
	0 - 54	20 - 48	7 - 35			

※大会規定により総失点の少ない方が上位となる

■順位決定戦

優勝決定戦: カナダ 14 - 40 アメリカ

3位決定戦: オーストリア 30 - 31 メキシコ

5位決定戦: フランス 7 - 30 日本

7位決定戦: クウェート 0 - 76 ドイツ

【U-19 日本代表チームの試合結果】

第1試合(7月7日)

1次リーグ Bブロック	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	13	7	14	14	48
ドイツ代表	0	0	7	13	20

第2試合(7月10日)

1次リーグ Bブロック	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	10	14	0	0	28
メキシコ代表	0	7	7	10	28

第3試合(7月13日)

1次リーグ Bブロック	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	0	0	0	0
アメリカ代表	7	29	0	7	43

第4試合(7月15日)

5位決定戦	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	10	7	0	13	30
フランス代表	7	0	0	0	7

U-19 日本代表 山㟢 隆夫 監督(大阪産業大附属高等学校 アメリカンフットボール部監督)

(今大会を振り返って)

アメリカと試合できたのが何よりの収穫。(5位決定戦の)フランス戦を見ても、アメリカ戦を経験しているから楽だったと思う。何よりもアメリカと対戦した直後は到底勝てないとと思ったけど、冷静にビデオを見たり色々みたら、それほど夢でもないと思った。はっきり言って差があるのは、(日本の)DBと(アメリカの)WRのマッチアップだけ。能力差ではなく体格差。第1回目から分かっていたことだけど、LBの体格でスピードを持ったDBを育てていくことが今後の課題ということを再認識した。ラインのサイズ負けは問題ではない。もちろん、サイズがあるDBを作ることは難しい。逆に、そのようなDBが育ってくれれば十分にアメリカに対抗できると思う。

(今大会への参加意義)

良い経験をしてると思う。スタッフでは、このような暑い中で、かつ夜の試合なんて国際経験豊富な人でも初めての経験。コンディション作りは手探りでやったけど、何となくわかった感じがする。選手はアメリカと試合できたり、後半2試合での勝負強さを経験したことを自分のチームで反映してもらって、何年か先のシニアの代表に今回のメンバーが中心になってやってくれたら、この過酷な中での国際大会の経験はものすごくプラスになる。何年後かのシニア代表がすごく楽しみだと思う。

最初の3試合で選手もコーチもだれてしまうと思ったが、そういうこともなく最後までいい努力をしてくれた。

そういう意味で、全員を褒めてあげたい。今回のチームは本当に良いチームだった。日本のチーム作りの仕方は、今回参加したチームには良い見本になったと思う。

日本にとっては、日本中の選手やコーチが集まり優秀なコーチの下でチーム作りを学ぶということは、参加した選手たちにとって良い勉強になったと思う。これは日本の財産です。後世につなげていってほしい。

U-19 日本代表 主将 LB 山岸 明生 (関西学院大学2年)

(今大会を振り返って)

最初は世界で勝負できるかと思ったけど、段々チームが一つになっていって最初の気持ちが徒労に終わりました。仲間を信じてやっていこうという気になりました。5位という結果には満足していませんが、この仲間でやり遂げられたことは満足しています。今回の経験をどのように生かすかは個々の問題となりますが、個人的にはこの悔しさを忘れず、もう一度日の丸を背負ってアメリカを倒したいです。今回の経験は自分の殻を破ってくれましたし、本当に良い経験でした。



GAME REPORT

【第1試合】

—U-19 日本代表が初戦のドイツ戦に 48 対 20 で勝利！—

現地時間 7 月 7 日(月)※日本時間 8 日(火)、クウェート王国クウェート市で開催されているアメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 2014 が行われ、U-19 日本代表がドイツ代表と対戦し、48 対 20 のスコアで勝利しました。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、ラン 9 回で 139 ヤード、2TD、パスでも 3 捕球 97 ヤード、1TD を記録した RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)が受賞しました。

現地時間 7 月 7 日(月) 23 時 06 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	13	7	14	14	48
ドイツ代表	0	0	7	13	20

ゲームサマリー

コイン投で勝利した日本はレシーブを選択。自陣 37 ヤードから始まった攻撃のファーストプレイで、RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)がいきなり 31 ヤードランのビッグプレイで一気に敵陣侵入。さらに、QB 西山 雄斗(立命館大学 1 年)から RB 西村への 27 ヤードパスが決まりゴール前 5 ヤードへ。相手反則と RB 野田 篤生(中央大学 1 年)のランでゴール前 1 ヤードに進むと、セカンドダウンゴールの場面で RB 西村がエンドゾーンへボールを持ち込む先制のタッチダウン。日本代表が 7 対 0 と幸先良くリードする。

勢いに乗る日本代表は、直後のドイツのファーストプレイで DB 村上 知裕(立命館大学 1 年)がインターセプト。しかし、この好機では得点を奪えない。それでも、直後の敵陣 17 ヤードから始まった攻撃では 41 ヤードランなどで自陣 8 ヤードまで進まれるも、相手のフォースダウンギャンブルを止めて得点を許さない。

その次の攻撃はスリーアンドアウトで止められた日本代表。ドイツの攻撃もパントに封じると、第 1Q 残り 1 分 18 秒、自陣 25 ヤードからの攻撃で QB 西山から WR 近江 克仁(立命館大学 1 年)へ 30 ヤードパスがヒット。すると、QB 西山から RB 西村へ 45 ヤードのタッチダウンパスが通り加点。その後のキックを外すも 13 対 0 とリードを広げる。

第 2Q 開始早々はこう着状態が続いたが、日本代表は前半残り 3 分 37 秒、自陣 35 ヤードのドライブで RB 西村がライトタックルを抜けて 65 ヤードタッチダウンラン。キックも決めて 20 対 0 として前半を折り返す。

前半からドイツのラン攻撃に手を焼いていた日本代表。後半最初の相手の攻撃で、74 ヤードタッチダウンランを許してしまう。しかし、日本代表は直後の攻撃、敵陣 47 ヤードと好ポジションからスタートしたドライブで RB 野田がランで 47 ヤードのタッチダウンを決めて再びリードを広げる。

さらにファンブルリカバーで攻撃権を奪取した日本代表は、野田、西村のラン攻撃、西山のパスに相手反則もあり敵陣まで攻め込む。すると、セカンドダウンゴールで QB 西山から WR 成田 光希(立命館宇治高 3 年)へタッチダウンパスが通ったかのように見えたが、パスインターフェアランスの反則。それでも次のプレイで再び QB 西山は WR 成田を選択してこれがタッチダウンパスとなる。

第 4Q、日本代表は、第 3Q からの攻撃の続きで開始早々にタッチダウンを奪われてしまう。それでも、次の自陣 16 ヤードから始まったプレイで、ランとパスを織り交ぜ着実に前進。最後は、QB 西山から WR 廣吉 賢(立命館宇治高 3 年)へ 29 ヤードタッチダウンパスが通り、41 対 14 へリードを広げ、試合の大勢を決めた。その後は、両チームともワンタッチダウンずつを取り合うもそこまで。日本代表が第 1 回大会に続いて、初戦でドイツを下した。

■ドイツ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山㟢 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

初戦を勝利で終わることができてホッとしている。初戦の入り方としては良かった。第 1Q 最初のプレーが大きかった。(西村)七斗が上手く走ってくれた。いくらヤードを稼がれても得点を与えなければいいが、いけないのは後半最初のプレイ。体力的にハンデがあるから、一発のプレイだけをやられないように気を付けたい。

U-19 日本代表 RB 西村 七斗 (立命館大学 1 年)

(MVP の感想について)とても嬉しいです。ドイツは体が大きくて、強かったです。それでも、日本の戦術通りにいけたので、とても良かったです。(自身のパフォーマンスについては)スピードをうまく生かすことができました。次戦のメキシコはもっと強いと思うので、スピードを生かして走りたいと思います。

■主なスタッツ

得点経過

1st	10:01	JPN	7-0 西村七斗 1 yd run (山岸明生 kick)
	00:07	JPN	13-0 西村七斗 45 yd pass from 西山雄斗 (山岸明生 kick-failed)
2nd	03:25	JPN	20-0 西村七斗 65 yd run (山岸明生 kick)
3rd	11:36	GER	20-7 J.Manyema 74 yd run (M.v.Wachsmann kick)
	11:15	JPN	27-7 野田篤生 47 yd run (山岸明生 kick)
	05:15	JPN	34-7 成田光希 27 yd pass from 西山雄斗(山岸明生 kick)
4th	11:53	GER	34-14 J.Manyema 5 yd run (M.v.Wachsmann kick)
	08:59	JPN	41-14 廣吉 賢 29 yd pass from 西山雄斗 (山岸明生 kick)
	02:54	JPN	48-14 大内 勇 5 yd run (山岸明生 kick)
	00:00	GER	48-20 G.Ngovo 2 yd run

日本	チーム成績	ドイツ
502	オフェンス総獲得ヤード数	451
213	パス総獲得ヤード数	132
289	ラン総獲得ヤード数	319
19	ファーストダウン回数	19
6-55	ペナルティ回数—喪失ヤード数	12-86
18:32	ボール支配時間	29:28

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
西山 雄斗 (立命館大)	8/18	213	3	0	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗(立命館大)	9	139	2	15.4	65
野田 篤生 (中央大)	7	80	1	11.1	47
廣吉 賢 (立命館宇治高)	4	36	0	9.0	26
大内 勇 (関西大学)	3	34	0	11.3	21
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗 (立命館大)	3	97	1	32.3	45
近江 克仁(立命館大)	1	30	0	30.0	30
宇治野 健(立命館大)	1	29	0	29.0	29
廣吉 賢 (立命館宇治高)	1	29	1	29.0	29
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターチェプト	
谷口 一騎 (日本大)	9	0	0	1	
山岸 明生 (関西学院大)	7.5	0	1	0	
佐藤 将貴(中央大)	6.5	0	0	0	



〈左〉
9回のタックルを決めリーディングタックラーになった、DB 谷口（日本大）

〈左下・下〉
ランで 139 y、パスで 97 y を獲得し、この試合の MVP に選出された、RB 西村（立命館大）





GAME REPORT

【第2試合】

—メキシコ戦に 24 対 24 で引き分け 1 勝 1 分でアメリカと対戦—

現地時間 7 月 10 日(木)※日本時間 11 日(金)、クウェート王国クウェート市で開催されているアメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 2014 が行われ、U-19 日本代表がメキシコ代表と対戦し、24 対 24 のスコアで引き分けました。B ブロックに属する U-19 日本代表は、アメリカ、メキシコ、ドイツと同組。次戦は 7 月 13 日、グループ首位をかけて 2 連勝中のアメリカ代表と顔を合わせます。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、ラン 19 回 112 ヤード、1TD、パスでも 3 捕球 86 ヤードを記録した RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)が 2 試合連続で受賞しました。

現地時間 7 月 10 日(木) 19 時 59 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	10	14	0	0	24
メキシコ代表	0	7	7	10	24

ゲームサマリー

ドイツ戦に続いてコイントスで勝利した日本はレシーブを選択。自陣 20 ヤードから始まった攻撃のファーストプレイで、RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)が 9 ヤードラン。続いて西村へのスクリーンパスで 62 ヤード前進。一気にゴール前 9 ヤードまで攻め込むと、2 つのランを挟んで、最後は QB 西山 雄斗(立命館大学 1 年)が WR 近江 克仁(立命館大学 1 年)へ先制の 8 ヤードタッチダウンパス。日本代表が 7 対 0 とリードする。

続くメキシコ代表の攻撃をスリーアンドアウトで止めた日本代表。自陣 15 ヤードから始まった攻撃では、QB 西山 のパス、RB 西村のランを交互に織り交ぜ着実に前進。敵陣まで侵入する。しかし敵陣 15 ヤードまで攻め込むもタッチダウンを奪えず。それでも山岸 明生(関西学院大学 2 年)が 32 ヤード FG を決め、リードを 10 点に広げる。その後両チームとも得点を奪えず第 1Q を終了する。

第 2Q、日本代表の最初のドライブは敵陣 40 ヤードからスタート。ここで RB 西村が 34 ヤード走り、一気にゴール前 6 ヤードへ。さらに RB 西村が 6 ヤードタッチダウンランを決め、日本代表は 17 対 0 と試合の主導権を握る。

しかし、直後のメキシコのドライブで、9 連続ラン攻撃を止められず、ゴール前 1 ヤードまで攻め込まれてしまう。そして最後も 1 ヤードタッチダウンランを許して、17 対 7 とされる。

リードが 10 点に変わった日本代表は、メキシコ陣 20 ヤードで LB 山岸が会心のインターセプト。一気にゴール前 5 ヤードまでボールを運ぶ。2 つのランでゴールまで 1 ヤードまで進むと、最後は QB 西山がスニーケでタッチダウン。24 対 7 と再び 17 点リードに戻して前半を折り返す。

第 3Q は両チームがそれぞれ最初のドライブで無得点に終わる。すると、日本代表は第 3Q 残り 6 分 23 秒、敵陣 20 ヤードから始まったドライブでタッチダウンを許してしまう。

24 対 14 と再度 10 点差にされた日本代表は、追加点を奪えず苦しい展開。試合残り 7 分 51 秒からのドライブでは、自陣 2 ヤードまで攻め込まれるも FG に抑え、1 タッチダウン差の 7 点差にされる。

日本代表は試合残り 4 分 2 秒、自陣 20 ヤードから始まった攻撃では、時間を進めたいが思うようにボールを運べず、パントに終わってしまう。すると、試合残り 1 分 38 秒、50 ヤード地点から始まった相手攻撃、日本代表は 10 ヤード、6 ヤードのパスを立て続けに決められてしまう。そして、自陣 34 ヤード、サードダウン 4 のシチュエーションで一気にエンドゾーンまで走られ、24 対 24 の同点に追いつかれてしまう。

日本代表は、残り 49 秒の最後のドライブであえて無理をして攻撃せず。試合は、引き分けのまま終了となった。これにより、次戦アメリカ代表に勝てば無条件で優勝決勝戦へ。仮に負けた場合でも、メキシコ対ドイツの結果次第でグループ 2 位となり 3 位決定戦へ駒を進めることになる。

勝率が並んだ場合の順位決定方法

- ①当該チーム間の勝敗
- ②当該チーム間の得点差
- ③当該チーム間ゲームの TD 数
- ④総失点
- ⑤トータル被タッチダウン数
- ⑥コントロール

■メキシコ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山崎 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

前半はプラン通りだった。第 4Q 前に、できれば 14 点差をつけておきたかった。(最後のシリーズについて)無理に点を取りにいってしまうと守備が難しいし、かといって、1 本取れば勝てるという展開で、非常に難しい展開だった。無敗でアメリカと対戦するから(この日の引き分けは)全然問題ない。アメリカ戦に全力でぶつかる。

U-19 日本代表 RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)

(MVP の感想について)2 試合連続でもらえて非常に光栄です。(メキシコについて)とても大きくて、あたりが強かったです。日本にはいない感じでしたが、速さはあまり感じませんでした。2 試合連続で 100 ヤード以上走れたのは、チームメイトのおかげです。アメリカに勝たないと世界一になれないで、次戦も頑張ります。

■主なスタッツ

得点経過				
1st	9:39	JPN	7-0 近江克仁 8 yd pass from 西山雄斗 (山岸明生 kick)	
	04:23	JPN	10-0 山岸明生 32 yd field goal	
2nd	11:20	JPN	17-0 西村七斗 65yd run (山岸明生 kick)	
	06:48	MEX	17-7 V.Cruz 1 yd run (R.Aguilar kick)	
	1:31	JPN	24-7 西村七斗 1yd run (山岸明生 kick)	
3rd	04:03	MEX	24-14 E.Fernandez 5 yd run (R.Aguilar kick)	
4th	04:02	MEX	24-17 R.Aguilar 24yd field goal	
	00:49	MEX	24-24 J.Ramirez 34yd run (R.Aguilar kick)	

日本	チーム成績	メキシコ
259	オフェンス総獲得ヤード数	352
147	パス総獲得ヤード数	146
112	ラン総獲得ヤード数	206
11	ファーストダウン回数	18
4-50	ペナルティ回数／喪失ヤード数	10-97
22:42	ボール支配時間	25:18

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターフセプト	被サック
西山 雄斗 (立命館大)	9/17	147	1	1	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗(立命館大)	19	117	1	5.9	34
野田 篤生 (中央大)	1	6	0	6.0	6
大内 勇 (関西大)	2	6	0	3.0	4
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗 (立命館大)	3	86	0	28.7	62
中川 葵一(立命館大)	3	25	0	8.3	12
近江 克仁(立命館大)	2	33	1	16.5	25
鈴木 隆貴(早稲田大)	1	3	0	3.0	3
選手名	タッカル数	サック数	ロスタッカル	インターフセプト	
山岸 明生 (関西学院大)	11.5	0	1	1	
星野 慶一郎 (立教大)	6.0	0	0.5	0	
染矢 優生 (慶應義塾大)	5.5	0	0	0	
佐藤 将貴(中央大)	4.5	1.5	1.5	0	
藤田 将太朗(関西大)	4.0	0	0	0	



〈左〉

2Q、LB 山岸（関西学院大）は QB V.Cruz のパスをインターセプト。20 y リターンし反撃につなげる。

〈左下・下〉

ランで 117 y、パスで 86 y を獲得した RB 西村（立命館大）は、2 試合連続で MVP に選出された。





GAMERREPORT

【第3試合】

—アメリカに 0 対 43 で完敗 5 位決定戦でフランスと対戦へ—

現地時間 7 月 13 日(日)※日本時間 14 日(月)、クウェート王国クウェート市で開催されているアメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 2014 が行われ、U-19 日本代表がアメリカ代表と対戦し、0 対 43 のスコアで敗れました。B ブロックに属する U-19 日本代表は、アメリカ、メキシコ、ドイツと同組。1 勝 1 敗 1 分でメキシコ代表と並びましたが、総失点差で同組 3 位となり 5 位決定戦へ回ることになりました。5 位決定戦は 7 月 15 日。日本代表は、A グループ 3 位だったフランス代表と顔を合わせます。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、7.5 タックル、1 インターセプトを記録した主将の LB 山岸 明生(関西学院大学 2 年)が受賞しました。

現地時間 7 月 13 日(日) 23 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	0	0	0	0
アメリカ代表	7	29	0	7	43

ゲームサマリー

3 試合連続でコントロールに勝利した日本はこの日もレシーブを選択。しかし、自陣 20 ヤードから始まった攻撃はスリーアウトアンドアウト。敵陣 28 ヤードからの相手攻撃は、ファーストダウンを 1 回更新されるが、相手反則もありフォースダウン 2 ヤードとなる。ここでアメリカは、フォースダウンギャンブルを選択。3 ヤードパスを成功させ、さらに日本の反則もありファーストダウンを更新する。再び日本は、自陣 35 ヤードでフォースダウン 13 ヤードに抑え込むが、アメリカは再びギャンブル。すると、日本は 35 ヤードのタッチダウンパスを決められ、先制点を許してしまう。

続く日本は、タッチバックで再び自陣 20 ヤードからの攻撃。WR 廣吉 賢(立命館宇治高 3 年)が 9 ヤードラン、RB 西村 七斗(立命館大学 1 年)が 11 ヤード走り、ファーストダウン更新。さらに、西山 雄斗(立命館大学 1 年)が WR 近江 克仁(立命館大学 1 年)へ 15 ヤードの、TE 青根 智広(関西大学 1 年)へ 5 ヤードの、鈴木オリバー理央(立教大学 1 年)へ 23 ヤードのパスをそれぞれヒット。敵陣 24 ヤードまで侵入する。しかし、RB 西村のランを挟んだ後のプレイで、タッチダウンを狙った QB 西山のパスがエンドゾーン付近で無情のインターセプト。日本は同点機を逃してしまう。

第 2Q に入ると、アメリカはインターセプトでつかんだチャンスをタッチダウンにつなげ、リードを 14 点に広げる。続く日本の攻撃はスリーアウトアンドアウト。自陣 25 ヤードからの守備では、10 ヤードランを許した後のサードダウン 10 ヤードでタッチダウンパスを再び決められる。ツーポイントコンバージョンも決められて 0 対 22 とされる。

追い上げたい日本だが、QB 大内 勇(関西大学 1 年)がサックされるなどボールを進められず。自陣 6 ヤードか

らパントを蹴るが、これをアメリカはパントリターンタッチダウン。日本は 29 点差とされてしまう。さらに、次の攻撃でも 65 ヤードパントリターンタッチダウンを許し、日本は前半で 36 点のビハインドを背負う。

前半のうちに 1 タッチダウンだけでも返しておきたい日本は、敵陣 26 ヤードに攻め込むが、フォースダウン 1 ヤードで QB 大内のパスがインターセプト。試合は、0 対 36 のアメリカリードで折り返す。

第 3Q 最初のアメリカのドライブをパントに抑えた日本。自陣 18 ヤードから始まった攻撃は、QB 大内がサードダウンで 15 ヤード、18 ヤードのパスをそれぞれ通し敵陣 45 ヤードまで侵入。しかし、ここから攻撃が続かず、相手に攻撃権を渡してしまう。それでも、主将の LB 山岸 明生(関西大学 2 年)がインターセプトして攻撃権を奪取する。

このチャンスを得点に結び付けたい日本だったが、スリーアンドアウト。両チーム無得点のまま第 4Q に突入する。

第 3Q から続くアメリカの攻撃で自陣 2 ヤードまで攻め込まれた日本は、第 4Q 最初のプレイでタッチダウンを許して 0 対 43。何とか一矢報いたい日本だが、アメリカの牙城を崩せずそのまま敗れた。

敗れた日本は 1 勝 1 敗 1 分。この日ドイツ代表に 35 対 7 で勝利したメキシコ代表も 1 勝 1 敗 1 分。しかし、勝率が並んだ場合の順位決定方法で総失点が適用され、日本の総失点は 87 点。対するメキシコの総失点は 80 点。よって、メキシコが日本を上回り 3 位決定戦に進むことになった。

■アメリカ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山岸 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

アメリカを目標にしてやってきた。アメリカと試合ができることが楽しみで光栄で嬉しかったし、そういう意味では本当に良い経験ができた。

(アメリカの印象について)素晴らしいチームだった。残念ながら今の日本代表では手も足も出ない。憧れのチームに相応しかった。ただし、50 年後には必ず勝ちます。

大橋 誠アシスタントヘッドコーチ

アメリカは強かった。予想よりスピードがあると思った部分もある一方で、スクリメージの攻防は互角以上に戦っていた。攻守で体を張って勇敢に戦っていた。

(敗因について)色々な意味でフィニッシュができなかった。良い形を作るも点を取りきれなかったり、ボールを取りきれなかった。

U-19 日本代表 LB 山岸 明生(関西学院大学 2 年)

今までずっとこの日の試合を目標にやってきました。実際にアメリカとやってみて実力の差がありましたけど、もう一度このレベルと戦いたいと思いました。個人的にはインターセプトできてチームに貢献できましたけど、もっとレベルアップする必要があると思いました。

■主なスタッツ

得点経過

1st	07:59	USA	0-7 A.Kelsey 35yd pass from B.Scott (J.Maples kick)
2nd	11:49	USA	0-14 K.Bruce 33yd pass from B.Scott (J.Maples kick)
	09:25	USA	0-22 C.Krivashei 15yd pass from B.Scott (W.Tillo rush)
	04:09	USA	0-29 D.Taylor 54yd punt return (J.Maples kick)
	01:39	USA	0-36 D.Taylor 65yd punt return (J.Maples kick)
4th	11:56	USA	0-43 R.Alston 2yd run (J.Maples kick)

日本	チーム成績	アメリカ
156	オフェンス総獲得ヤード数	300
151	パス総獲得ヤード数	205
5	ラン総獲得ヤード数	95
9	ファーストダウン回数	17
3-30	ペナルティ回数／喪失ヤード数	5-45
24:38	ボール支配時間	23:22

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターフェット	被サック
大内 勇 (関西大)	8/26	103	0	2	3
西山 雄斗 (立命館大)	4/9	48	0	1	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗(立命館大)	12	43	0	3.6	11
廣吉 賢 (立命館宇治高)	1	9	0	9.0	9
成田 光希(立命館宇治高)	1	3	0	3.0	3
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
近江 克仁(立命館大)	4	55	0	13.8	18
鈴木 隆貴(早稲田大)	3	49	0	16.3	23
成田 光希(立命館宇治高)	1	30	0	30.0	30
青根 智広 (関西大)	1	5	0	5.0	5
鈴木 理央 (立教大)	1	5	0	5.0	5
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターフェット	
山岸 明生 (関西学院大)	7.5	0	0	1	
星野 慶一郎 (立教大)	6.0	0	2	0	
谷口 一騎 (日本大)	5.5	0	1	0	
佐藤 将貴 (中央大)	4.5	0	1	0	
松原 和起 (関西大)	4.0	0	1	0	
染矢 優生 (慶應義塾大)	4.0	0	0	0	



〈左〉

QB 大内（関西大）は 8 本のパスを成功させ、
103 y を獲得

〈左下〉

QB 西山（立命館大）は 4 本のパスを成功させ、
48 y を獲得

〈下〉

この日リーディングタックラーとなった LB
山岸（関西学院大）が MVP に選出された。



GAME REPORT

【第4試合】

—フランスに 30 対 7 で快勝 世界 5 位に—

現地時間 7 月 15 日(火)※日本時間 16 日(水)、クウェート王国クウェート市で開催されているアメリカンフットボール U-19 世界選手権大会 2014 が行われ、U-19 日本代表がフランス代表と対戦し、30 対 7 のスコアで勝利しました。これにより、日本代表の 5 位が、フランス代表の 6 位が確定となりました。

なお、この試合の U-19 日本代表ゲーム MVP には、10 捕球、149 ヤードで 2TD を記録した WR 近江 克仁(立命館大学 1 年)が受賞しました。

現地時間 7 月 15 日(火) 20 時 01 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	10	7	0	13	30
フランス代表	7	0	0	0	7

ゲームサマリー

今大会 4 試合目で初めてキッキングからスタートなった日本は、フランスのセカンドプレイで 72 ヤードランのゲインを許し、いきなりゴール前 1 ヤードまで攻め込まれる。すると、ランを挟んだ後のプレイでタッチダウンを許し、7 点のビハインドを背負う。

しかし日本はすぐさま反撃。野田 篤生(中央大学 1 年)、西村 七斗(立命館大学 1 年)、古川 真宙(関西大学 1 年)の RB トリオの活躍で敵陣まで侵入。2 度の反則を犯して下げられるも、QB 西山 雄斗(立命館大学 1 年)から WR 近江 克仁(立命館大学 1 年)へのパスが相手反則となり一気にゴール前 2 ヤードへ。最後は RB 西村がエンドゾーンに飛び込み、キックも決めて 7 対 7 の同点に追いつく。

その後フランスの攻撃をスリーアンドアウトで止めた日本。直後の攻撃では敵陣 25 ヤードまで攻め込むもタッチダウンは奪えず。それでも、山岸 明生(関西学院大学 2 年)が 42 ヤード FG を決めて 10 対 7 と勝ち越しに成功する。

第 2Q に入ると、日本は山岸が 45 ヤード FG を狙うが失敗。追加点を奪うことができない。しかし、守備が踏ん張り相手に得点を与えない。すると、攻撃陣が奮起。自陣 16 ヤードから始まったドライブで、QB 西山が立て続けにパスを成功。敵陣 17 ヤードまで進むと、ここで QB 西山から WR 近江へタッチダウンパスがヒットして加点。17 対 7 のリードで前半を折り返す。

後半に入ると、日本は、フランスが 11 分 4 秒かけて 80 ヤード進んだドライブで得点を許さない。自陣 10 ヤードで得た攻撃権で、西村、古川の RB コンビの地上戦で着実に敵陣へ前進。相手反則もあってゴール前 3 ヤードまで進むと、最後は RB 西村がエンドゾーンに走り込み追加点。24 対 7 と完全に試合の主導権を握る。

さらに日本は、試合時間残り 1 分 25 秒、敵陣 30 ヤードからの攻撃で、途中出場の QB 百田 海渡(関西学院大学 1

年)が、エンドゾーン内のWR近江ヘロングパス。これをWR近江が守備と競り合いながらもしっかりとキャッチ。ダメ押し点を奪って試合を決めた。

■フランス戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山㟢 隆夫監督(大阪産業大附属高等学校)

結果については満足している。ディフェンスがファーストシリーズだけアサイメントミスをしたけど、後は全然危なげなく落ち着いていたので、試合も落ち着いていた。日本はいつも後半弱いけど、第3Q、第4Qにヤードを出されながらも(失点せずに)粘った。オフェンスも後半にしっかりと得点を取ったので、今までの日本の課題を克服した試合で良かった。終わり良ければすべて良しです。

U-19 日本代表 WR近江 克仁(立命館大学1年)

最後にしっかりと勝って日本に帰りましたので、結果については満足しています。

(MVP受賞について)ディフェンスが要所でしっかりと止めてくれたことと、相手の弱点を突いたコーチのサインが効いていたので、僕はしっかりとキャッチするだけでした。

■主なスタッフ

得点経過

1st	09:53	FRA	7-0 A.Deschamps 1 yd run (N.Tsimi kick)
	05:56	JPN	7-7 西村七斗 2yd run (山岸明生 kick)
	00:13	JPN	7-10 山岸明生 42 yd field goal
2nd	00:25	JPN	7-17 近江克仁 17yd pass from 西山雄斗(山岸明生 kick)
4th	03:15	JPN	7-24 西村七斗 3yd run (山岸明生 kick)
	01:15	JPN	7-30 近江克仁 30yd pass from 百田海渡(山岸明生 run-failed)

日本	チーム成績	フランス
358	オフェンス総獲得ヤード数	198
206	パス総獲得ヤード数	10
152	ラン総獲得ヤード数	188
22	ファーストダウン回数	9
4-25	ペナルティ回数	3-28
24:54	ボール支配時間	23:06

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベプト	被サック
西山 雄斗 (立命館大)	15/21	176	1	0	1
百田 海渡 (関西学院大)	1/1	30	1	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 七斗(立命館大)	17	71	2	4.2	11
古川 真宙(関西大)	7	71	0	10.1	19
野田 篤生(中央大)	4	21	0	5.2	8
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
近江 克仁(立命館大)	10	149	2	14.9	30
西村 七斗(立命館大)	2	33	0	16.5	23
鈴木 理央 (立教大)	1	10	0	10.0	10
中川 葵一 (立命館大)	1	8	0	8.0	8
成田 光希(立命館宇治高)	1	6	0	6.0	6
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターベプト	
山岸 明生 (関西学院大)	9.5	0	1	0	
谷口 一騎 (日本大)	5.0	0	0.5	0	
星野 慶一郎 (立教大)	4.0	0	1.5	0	
奥井 大地 (龍谷大)	3.5	0	0	0	
仲島 健 (日本大学)	3.0	0	0	0	



〈左〉

K/LB 山岸（関西学院大）は 1Q、42 y の FG を決め逆転、チームを勢いづかせた。

〈下〉

この日 10 回のキャッチ、149 y を獲得した WR 近江（立命館大）が MVP に選出された。



第3回 アメリカンフットボール U-19 世界選手権大会
日本代表選手 45 名 コーチ・スタッフ 24 名

背番号	Posi	名前	フリガナ	所属大学	学年	身長	体重
1	WR	桑原 司	クワハラ ツカサ	日本大学	1	170	68
2	RB	野田 篤生	ノダ アツキ	中央大学	1	173	74
3	RB	西村 七斗	ニシムラ ナナト	立命館大学	1	173	72
4	QB	西山 雄斗	ニシヤマ ユウト	立命館大学	1	178	79
5	QB	百田 海渡	ヒヤクダ カイト	関西学院大学	1	186	80
6	RB	古川 真宙	フルカワ マオキ	関西大学	2	178	72
7	LB	山岸 明生	ヤマギシ アキオ	関西学院大学	2	180	89
8	QB	大内 勇	オオウチ イサム	関西大学	1	179	72
10	WR	廣吉 賢	ヒロヨシ ケン	立命館宇治高	3	173	73
11	WR	鈴木 オリバー 理央	スズキ オリバー リオ	立教大学	1	181	80
12	WR	宇治野 健	ウジノ ケン	立命館大学	1	184	81
17	DB	村上 知裕	ムラカミ トモヒロ	立命館大学	1	171	65
18	WR	近江 克仁	オウミ ヨシヒト	立命館大学	1	180	75
20	DB	奥井 大地	オクイ ダイチ	龍谷大学	1	173	70
22	DB	奥本 魁	オクモト カイ	日本大学	1	168	68
25	DB	久保 鳩	クボ ハヤテ	早稲田大学	1	181	73
28	DB	杉山 将太	スギヤマ ショウタ	明治大学	2	172	79
30	LB	染矢 優生	ソメヤ ユウキ	慶應義塾大学	1	172	83
31	DB	藤田 将太朗	フジタ ショウタロウ	関西大学	1	174	72
32	DB	佐藤 成生	サトウ ナルキ	明治大学	1	172	74
33	DL	佐藤 将貴	サトウ マサキ	中央大学	1	184	97
36	DB	谷口 一騎	タニグチ カズキ	日本大学	1	170	72
40	LB	辻元 祐二	ツジモト ユウジ	関西大学	2	170	86
43	DB	仲島 健	ナカジマ ケン	日本大学	1	171	77
45	LB	小段 鳩	コダン ハヤテ	関西大学	1	177	88
49	DL	田口 宗志	タグチ シュウジ	関西大学	1	177	90
52	LB	星野 慶一郎	ホシノ ケイイチロウ	立教大学	1	171	86
55	DL	ビスカルド ビクトル 一路	ビスカルド ビクトル イチロ	日本体育大学	1	174	98
58	OL	村田 圭	ムラタ ケイ	立命館大学	1	179	98
59	OL	島崎 貴弘	シマザキ タカヒロ	早稲田大学	2	183	107
65	DL	山崎 慎悟	ヤマザキ ショウゴ	日本大学	1	178	120
66	OL	松原 寛志	マツバラ ヒロシ	早稲田大学	2	180	110
68	OL	玉村 匠	タマムラ タクミ	中央大学	1	180	105
70	OL	山下 憧	ヤマシタ ショウ	立命館大学	1	184	105
75	OL	田川 雄一郎	タガワ ユウイチロウ	関西大学	2	185	110
77	DL	木保 慎太郎	キボ シンタロウ	立命館大学	1	187	130
78	OL	大黒 駿	ダイコク シュン	関西大学	1	180	97
80	WR	成田 光希	ナリタ コウキ	立命館宇治高	3	181	93
85	WR	中川 葵一	ナカガワ キイチ	立命館大学	1	176	74
86	WR	鈴木 隆貴	スズキ リュウキ	早稲田大学	1	177	81
88	TE	青根 智広	アオネ トモヒロ	関西大学	1	186	89
89	TE	大崎 泰志	オオサキ タイシ	立命館大学	1	181	98
90	DL	新川 謙太	ニッカワ リョウタ	中央大学	1	179	112
92	DL	松原 和起	マツバラ カズキ	関西大学	1	173	98
95	DL	高橋 勇輝	タカハシ ユウキ	立命館大学	2	173	105

役 職	名 前	ふりがな	所 属
監督	山㟢 隆夫	やまざき たかお	大阪産業大附属高等学校
アシスタント ヘッドコーチ	大橋 誠	おおはし まこと	オーピックシーガルズ
オフェンスコーディネーター	須永 恭通	すなが たかゆき	ノジマ相模原ライズ
ディフェンスコーディネーター	武田 真一	たけだ しんいち	大阪産業大附属高等学校
コーチ(WR)	板井 征人	いたい まさと	関西大学
コーチ(RB/K)	岸野 公彦	きしの きみひこ	立命館大学
コーチ(OL)	田中 芳行	たなか よしゆき	日本大学
コーチ(LB)	有澤 玄	ありさわ げん	LIXIL ディアーズ
アシスタントコーチ	木戸 宗子郎	きど そうじろう	追手門学院大学
アシスタントコーチ	歳内 直人	さいうち なおと	箕面自由学園高等学校
アシスタントコーチ	藤巻 辰崇	ふじまき たつたか	日本大学
アシスタントコーチ	秋山 峻	あきやま しゅん	日本体育大学
団 長	浅田 豊久	あさだ とよひさ	日本アメリカンフットボール協会
G M	清水 裕司	しみず ゆうじ	日本アメリカンフットボール協会
C D M	山田 晋三	やまだ しんぞう	日本アメリカンフットボール協会
チームドクター	藤谷 博人	ふじや ひろと	聖マリアンナ医科大学スポーツ医学講座
ヘッドトレーナー	今柳田 剛生	いまやなぎだ たかお	近畿大学
アシスタントトレーナー	曾根 伸明	そね のぶあき	東京ガス
アシスタントトレーナー	小山 貴之	こやま たかゆき	日本大学
学生トレーナー	加藤 圭	かとう けい	京都大学
学生トレーナー	安藤 祐介	あんどう ゆうすけ	立命館宇治高校
学生マネージャー	吉澤 忠晃	よしざわ ただあき	日本体育大学
学生マネージャー	中谷 翔太郎	なかたに しょうたろう	中央大学
学生マネージャー	坂本 昂大	さかもと こうだい	日本大学

■ 第3回 IFAF アメリカンフットボール U-19 世界選手権 大会概要

- 1 大会名称 IFAF U-19 世界選手権大会 2014
(IFAF U-19 WORLD CHAMPIONSHIP 2014)
- 2 主 催 国際アメリカンフットボール連盟 (International Federation of American Football)
- 3 主 管 Local Organizing Committee
- 4 日程 大会日程 2014年7月7日 (月) ~7月16日 (水)
遠征日程 2014年7月4日 (金) ~7月18日 (金)
- 5 開催地 クウェート王国、クウェート市
- 6 出場国 8ヶ国
カナダ (前回優勝)、
アメリカ合衆国、メキシコ、(アメリカ大陸2カ国)
オーストリア、フランス、ドイツ (ヨーロッパ大陸代表3カ国)
日本 (アジア代表)
クウェート (開催国)
【A ブロック】 カナダ、オーストリア、フランス、クウェート
【B ブロック】 アメリカ、日本、ドイツ、メキシコ
- 7 出場資格 2014年12月31日現在で16歳~19歳
(1995年1月1日~1998年12月31日生まれ)
- 8 チーム編成 選手45名
- 9 試合形式 NCAA ルール 12分/Q 計時
- 10 日本代表チーム編成
 - (1) 主管 日本アメリカンフットボール協会 (JAFA:Japan American Football Association)
 - (2) 協力 日本学生アメリカンフットボール協会
日本高等学校アメリカンフットボール協会

U-19 日本代表 チーム概要



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会、日本高等学校アメリカンフットボール協会

遠征日程 【遠征】7月4日(金)～【帰国】7月18日(金)

出国便(エミレーツ航空)

7月4日(金) 22:00 成田空港発 EK319便

7月5日(土) 03:50 ドバイ空港着

07:45 ドバイ空港発 EK855便

08:25 クウェート空港着

帰国便(エミレーツ航空)

7月17日(木) 22:25 クウェート空港発 EK860便

7月18日(金) 01:00 ドバイ空港着

02:50 ドバイ空港発 EK318便

17:25 成田空港着

国内最終練習 6月29日(日)～7月2日(水) 於: 鹿島グラウンド

関連ウェブサイト

JAFA公式サイト

<http://www.americanfootball.jp>

JAFA日本代表公式サイト

<http://japan.americanfootball.jp>

IAFA公式サイト

<http://ifaf.org/>

■写真





コーチングスタッフ



メディカルスタッフ



マネジメントスタッフ



金氏 IFAF 副会長(左)、浅田団長(中)

